

東京福祉会だより



ひびき 郷音

「響」とは「郷」の「音」と書きます。私ども東京福祉会では、この温かなものを大切に「心に響く葬儀」を目指しております。

「東京福祉会だより(響)」は、個人会友、団体会友の皆様をはじめ都内の各福祉事務所・施設などに配布しております。

読者の皆様の作品発表／
資料請求

体験寄稿文
『心癒されて』
M・Yさん

平成24年度決算報告

お客様からの「ご意見・ご要望」
(アンケート)

『私の死生観』
公益財団法人 日本対がん協会
会長 垣添 忠生 先生

第67号 平成25年7月(通刊90号)発行

大正8年創立



社会福祉法人 **東京福祉会**

道灌山会館 江古田斎場 ホール多摩国立

「私の死生観」

公益財団法人日本対がん協会 会長 垣添 忠生



私の妻は、2007年12月31日、自宅にて亡くなった。小細胞肺がんの再々発によるもので、全経過1年半、わずか4ミリで発見したがんを治すことができなかった。つらかった。それからマル5年経過した。妻の死後、私の死生観は明らかに変わった。それを記そうと思う。

私と妻との結婚生活は40年に及んだ。子供はいない。妻は私より12歳年が上だったので、当初は世間と二人で闘わなければならなかった。必然的に二人で互いに助け合い、文字通りの人生の伴走者だった。

その妻に起きた3度目のがんである小細胞がんは、当初、陽子線治療で完治した。しかし、わずか半年後に肺門部リンパ節転移を起こした。「転移が生じたといっても、1か所なんだから何とかなる」と妻を励まし、当時の最強の抗がん剤療法に、肺門部の放射線治療を加えた。二人とも完治を確認するつもりで受けた検査により、がんの全身転移が判明した。その瞬間に、妻も私も、残さ

れた人生は2〜3か月と理解した。妻は再々発してからの3か月、国立がんセンター中央病院に入院して果敢に病氣と闘った。しかし、病態が日増しに悪化していくとき、自宅での死を強く希望するようになった。わずか4日間だったが、私が医師、

看護師、介護士を兼ね、自宅一人で妻を看取った。私は全神経を妻に集中させ、親戚とのやり取りなどで集中力を途切らせたくなかつたからである。

亡くなる当日、完全に昏睡状態で、激しい呼吸困難のさ中にいた妻が、突然半身を起こして、私を注視し、私の左手を自分の右手でギュッと握って息絶えた。言葉にはならなかつたが、「ありがとう」といつてくれたのだと思う。最後の最後の瞬間に、気持ちを通じ合ったことは、その後の私の再生に測り知れない意味があった。

妻が亡くなった後の、特に最初の3か月間は、私は完全にうつ状態にあった。もう二人の自分が、自分をじつ

と凝視していて、「この男はどこまで落ち込むのか?」といった状況だった。約10日ほどのうちに深い深い絶望の底で固い岩盤にぶち当たったような気がした。以降その岩盤の上を横に移動して、最悪の精神、肉体状況が3か月続いた。

日中は公務に集中することで時間をうつちやることができたが、自宅では、ひたすら強い酒をあおった。妻の遺品を眼にする度に、涙が溢れて止まることがなかった。当時は、「自死することができないから生きていく」といった最悪の状況だった。しかし、100か日法要の頃から、つまり先人の智慧だろうが、3か月頃から、こんな生活をしてはいけなかつたと思うようになった。

筋トレを再開し、食事栄養バランスを考えて摂るようになり、酒も控え、自宅の管理も、健康管理も、万事が前向きになっていった。以降、3か月毎に精神も肉体もしっかりとしてきたばかりでなく、よい仲間やガイドとともに、本格的に山登り、

カヌーによる川下りなど、積極的にとり組むようになった。さらに、かねてから集中力の鍛練としてやりたかつた居合道の稽古も始め、週2回汗ビッシュリとなって稽古に励んだ。その間は悲しみを忘れることができるのである。

マル1年たった頃、暮・正月の休暇中、時間が余って仕方がないので毎日少しずつ妻の想い出を文章化していった。文章を書くことが、私の心の底の深い悲しみや苦悩を表出する、まるで練達のカウンセラーに話を聞いてもらっているような効果があることを発見した。この文章が後に、「妻を看取る日」と題して新潮社から発刊されるとベストセラーになり、BSハイビジョンでドラマ化された。取材も、講演も激増した。

この本に対する読者の反応がきわめて強かつたので、続編として、「悲しみの中にいるあなたへの処方箋」という本を出版した。これも増刷が続ぎ、文庫本化された。私は学問としてのグリーンフ・ケア

はしつかり勉強していたが、自分自身の苦悩を乗り越えるために専門家の助けは求めなかった。どんなに苦しくとも、自分で立ち直ろうと決めていたからである。しかし、世の中にはそんな知識がなく、配偶者や親族の死によって、突然悲しみの中に放り出されて苦しんでいる人々が、何と沢山いることか！ということを知ったのである。ここから、私の残る人生の中で、とり組むべき課題がいくつか、はつきり浮かび上がってきた。

私の妻は78歳で亡くなった。病弱な妻が、私の知らない12年の人生をどう歩んだのかを私も追体験したい。だから、78歳までは私も生きたい。そして、今、男性の平均寿命は79歳だから誤差を含めて80歳まで生きれば、私は十分だと考えるようになった。私は現在72歳。残る約10年の間に、公的にとり組みたいことは、①がん検診を国の事業にもどして、死ななくてよい人たちを救いたい、②がん登録といって、がんの正確な実態把握を、「がん登録法」といった法律に根ざして義務化を進め、やはり国の事業として進めることにより、正確な実態を把握し、将来予測にもとづくがん計画をたてること、③在宅で死にたい、と希望する人が

6割はいるのに、実際には「緊急時の医療的対応が心配だ」ということと、「家族に迷惑がかけられない」という理由から8割の人が病院で亡くなっている。私の妻の死の経緯から、在宅のもつ強い意味を明瞭に自覚した。加えて、2025年に向けて、日本人が年間に160〜170万人が亡くなる時、その8割が病院で亡くなることはあり得ない。在宅死を含む新しい医療体制を約10年のうちに準備しなければならぬ。

④そして、グリーン・ケアの普及と、ボランティア活動によるのではなく、グリーン・ケアを医療の中にとり入れて、診療報酬の対象とし、救いを求める人たちを放置しない体制を作ること。この四点である。いずれも大変な仕事だが、実現に向け努力したい。

妻が亡くなってから、私は死というものが少しも恐くなくなつた。登山は本来危険なスポーツだが、十分な自己トレーニングと準備をして、よい仲間やガイドとともに登つても、生命を落とす危険性がある。他人に迷惑がかからないよう配慮する必要はあるが、山で死んでも仕方がない、と思つている。また、カヌーでガイドとともに川下りをする時、激しい流れの中に突入するとき、一瞬死ぬ

のではないか？という感覚が頭を横切る。でも、突入する。無事突破したときの達成感が大きいことも理由だが、「ここで死んでも仕方がない」という感覚もある。

私は高齢単独所帯の典型である。自分の健康、生活は自分で護るしかない。日々筋トレを欠かさず、毎日最低1万歩は歩き、それに登山やカヌー、居合を続け、がん検診も適宜受けている。従つてメタボの徴候は皆無なので、恐らく私は検診の対象にならない珍しいがんになって死ぬのではないか？と思つている。治る可能性があるときは、もちろん立場上努力するが、いよいよ難しくなつて死ぬときは、私も自宅で死にたい。最後は点滴も止め、胃瘻(いろう)など考えもせず枯れ木が倒れるように死にたい。そのための自宅の改造や、在宅医や訪問看護師との関係も構築する必要があるので、眼にすると涙があふれるので、妻の遺品はまったく整理できていない。そして私が死ぬと、私の遺品も生ずる。これらの管理は、いずれ信頼のおける遺品整理会社と契約しておくつもりである。妻の遺骨と私の遺骨を粉にして、奥日光の中禅寺湖のほとりの秘密の場所に散骨してもらつた。これも「業者と契約しようと考えている」と話したら、

私の山の仲間がやつてくれる、という。私は自分に課した目標の実現を目指して日々努力し、死んだら葬儀も戒名もいらぬ。この世から跡形もなく姿を消したい、と願つて日々を淡々と生きている。



垣添 忠生
(かきぞえ ただお)

1941年生まれ、大阪府出身。医学博士、日本学術会議会員。
1967年東京大学医学部卒業、1972年同大学医学部泌尿器科助手、1975年国立がんセンター病院勤務、1987年同病院手術部長、第1病棟部長・副院長を経て、1992年1月病院長、同年7月中央病院長、2002年総長に就任し、2007年名誉総長・公益財団法人日本対がん協会会長に就任。聖路加看護大学大学院特任教授。
一貫してがんの診断・治療・予防に幅広く関わり癌研究の権威であり、第一人者。最近では、がんの在宅医療、グリーン・ケアについてもライフワークとして取り組んでいる。
瑞宝重光章 受章(平成25年 春)。国立がんセンター田宮賞、高松宮妃癌研究基金学術賞、日本医師会医学賞など、多数受賞。
〈著書〉「発がんからみた膀胱がんの臨床」(メディカル・ビュー社)、「がんと人間」(共著 岩波新書)、「患者さんと家族のためのがんの最新医療」(岩波書店)、「前立腺がんで死なないために」(読売新聞社)、「妻を看取る日」(新潮社)＝ベストセラー、「悲しみの中にいるあなたへの処方箋」(新潮社)、「がんと人生」(中央公論新社)など、多数。

お客様からのご意見・ご要望 (アンケート)

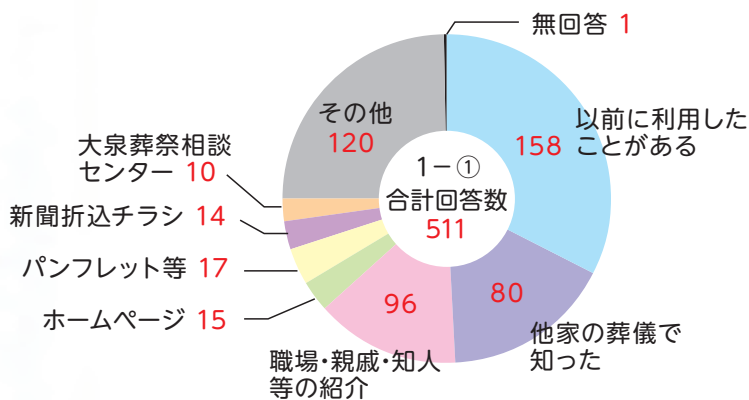
東京福祉会では、ご利用いただきましたお客様から、率直なご意見・ご感想をいただき、今後のサービス向上に資するため、アンケートへのご協力をお願いしております。平成24年度の集計結果は次の通りです。

いただきました貴重なご意見等につきましては、サービス向上の研鑽の糧とさせていただきます、今後より一層、質の高いサービスの提供に努めてまいります。

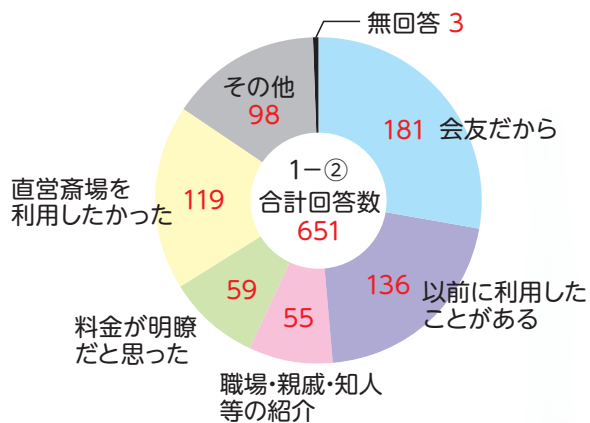


1 葬儀依頼の経緯についてお伺いします

①東京福祉会をどのようにして知りましたか
(複数回答可)



②今回、東京福祉会に葬儀を依頼した理由について
教えてください(複数回答可)



2 電話の対応についてお伺いします



	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満	無回答
①態度、言葉づかい	336	62	21	0	0	7
②質問等に対する説明	334	68	13	0	0	11
③話をよく聞いてくれた	341	59	15	0	0	11

3 担当職員についてお伺いします



	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満	無回答
①身だしなみ(服装・清潔感)	364	52	7	0	0	3
②誠実さ、態度、言葉づかい	367	51	3	0	0	5
③安心して任せることができた	364	53	4	1	0	4

アンケートの概要

- ◆実施期間：平成24年4月1日～平成25年3月31日
- ◆発送数：1,259通 返信数：426通



4 葬儀の打合せについてお伺いします

	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満	無回答
①誠実さ、態度、言葉づかい	334	57	6	0	0	29
②料金や内容等についての説明	309	74	11	1	1	30
③葬儀に関する全体的な説明	314	70	11	1	0	30
④要望をよく聞いてくれた	326	65	3	1	1	30

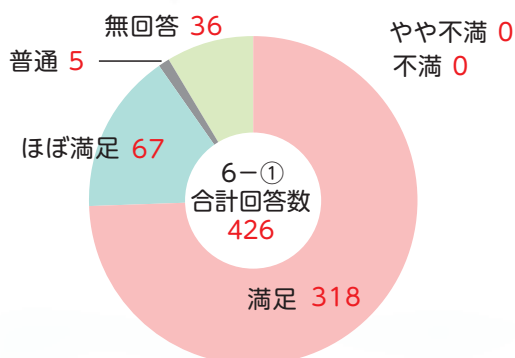
5 通夜・葬儀等についてお伺いします



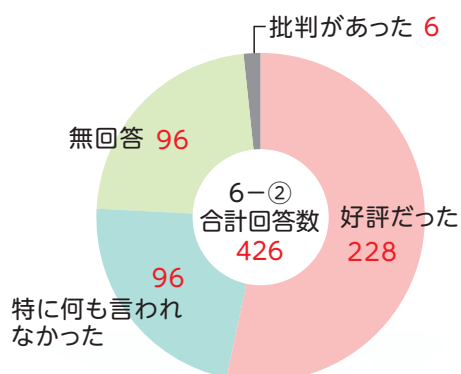
	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満	無回答
①祭壇・オプション品等	301	79	9	2	0	35
②式の全体的な進行	302	79	8	1	0	36
③職員の態度、言葉づかい	329	58	7	0	0	32
④司会	297	66	11	0	0	52
⑤通夜料理の味・内容	223	90	34	4	1	74
⑥精進落としの味・内容	232	86	27	3	1	77
⑦火葬場での対応	261	90	36	3	0	36

6 今回の葬儀全体についてお伺いします

①今回、葬儀を東京福祉会に依頼したことについて



②会葬者のご感想



平成24年度 決算報告

社会福祉法人 東京福祉会の平成24年度決算（概要）は、下表の通りです。平成24年度は、江古田斎場の面会室増設、聖恩山霊園納骨堂の内・外装の改修及び椅子式昇降機の設置等を行いました。また、平成24年度は新たに制定された社会福祉法人の会計基準に移行しました。

1. 貸借対照表

平成25年3月31日現在

勘定科目	金額（千円）
資産の部	
流動資産	1,846,856
固定資産基本財産	6,367,638
他の固定資産	3,301,392
資産の部 合計	11,515,886
負債の部	
流動負債	447,877
固定負債	1,196,342
負債の部 合計	1,644,219
純資産の部	
基本金	77,214
国庫補助金等特別積立金	2,686,420
その他の積立金	387,994
次期繰越活動増減差額	6,720,039
（うち当期活動増減差額）	208,841
純資産の部 合計	9,871,667
負債及び純資産の部 合計	11,515,886

2. 資金収支計算書

自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日

勘定科目	金額（千円）
事業活動による収支	
事業活動収入 計 ①	3,853,584
事業活動支出 計 ②	3,445,510
事業活動資金収支差額 ③=①-②	408,074
施設整備等による収支	
施設整備等収入 計 ④	40,144
施設整備等支出 計 ⑤	120,693
施設整備等資金収支差額 ⑥=④-⑤	△ 80,549
その他の活動による収支	
その他の活動収入 計 ⑦	107,882
その他の活動支出 計 ⑧	261,896
その他の活動資金収支差額 ⑨=⑦-⑧	△154,014
当期資金収支差額 合計 ⑩=③+⑥+⑨	173,511
前期末支払資金残高 ⑪	1,352,288
当期末支払資金残高 ⑫=⑩+⑪	1,525,799

3. 事業活動計算書

自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日

勘定科目	金額（千円）
サービス活動増減の部	
サービス活動収益 計 ①	3,833,691
サービス活動費用 計 ②	3,600,100
サービス活動増減差額 ③=①-②	233,591
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益 計 ④	29,178
サービス活動外費用 計 ⑤	15,503
サービス活動外増減差額 ⑥=④-⑤	13,675
経常増減差額 ⑦=③+⑥	247,266
特別増減の部	
特別収益 計 ⑧	16,523
特別費用 計 ⑨	54,948
特別増減差額 ⑩=⑧-⑨	△38,425
当期活動増減差額 合計 ⑪=⑦+⑩	208,841
前期繰越活動増減差額 ⑫	6,520,779
当期末繰越活動増減差額 ⑬=⑪+⑫	6,729,620
基本金取崩額 ⑭	0
基本金組入額 ⑮	0
その他の積立金取崩額 ⑯	0
その他の積立金積立額 ⑰	9,581
次期繰越活動増減差額 ⑱=⑬+⑭-⑮+⑯-⑰	6,720,039

ご葬儀の際にお得な特典がある、

会友制度 **Bプラン** に加入しませんか。

※Bプランは生前に加入する必要があります。



基本葬祭料金

30%割引

+

10 の特典

特典

1. 直営斎場利用料金50%割引
2. 貸し式場費用10%補填サービス
3. 生花1基サービス
4. 花とみどりのギフト券 10,000円分進呈
5. オリジナルエンディングノート 進呈
6. オプション品10,000円分値引き
7. 生花10%割引（祭壇脇生花等）
8. 関係機関誌の進呈
9. 出張講話会の開催
10. 葬祭に関する各種無料相談

加入金 **10,000円**

加入金のみで、月々の掛金・年会費は一切不要です。

現在、Aプランにご加入中の方は、

加入金 9,000円で

会友Bプランに変更することができます。

社会福祉法人 東京福祉会 渉外部

03-3823-8026

ホームページからも加入手続きが行えます。

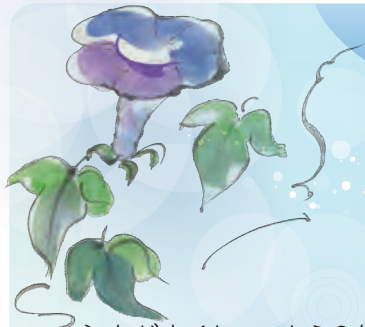
東京福祉会

検索

詳しくはホームページをご覧ください。

心癒されて

M. Y (板橋区在住)



主人が亡くなってもう3年になろうとしています。生前、遺言のように「自分は先祖代々のお墓に入りたい」と言っていましたが、田舎(香川県)の方にも病人が出たりしてなかなか実行できず気になっていました。やっと一昨年10月12日に念願がかなって無事分骨が出来、ほっとしているところです。

主人も黄泉の国で親兄妹にも逢えて、さぞ落ち着いたことでしょうかと想いを巡らしています。そこで、もう二人の秘密の箱の蓋を開けてもいいのではと思ひペンを執りました。

主人は持病があり、長い間苦しみ年齢を重ねるに連れ高熱を出し深夜救急車のお世話になったことも一再ではありませんでした。しかし、その都度元気を取り戻し暮らしてきました。

ところが、この度だけは残念なことに我が家に生きて帰ることは出来ませんでした。77歳で男性の平均寿命には達しませんでした。入院中私を困らせることもなくよく頑張ってくれました。この間、透析をしていたのですが感染症に罹り、最初は完食できた食事でも痰が多く痰の吸引は相当辛く、その上猛暑の中、一滴の水も口に出来ず過酷な闘病生活でした。意識もだんだん薄らぎ、苦しいと言うことすら訴えられずとても気の毒でした。出来ることなら替わってあげたいと思ひながらも、見守るしか術のないもどかしい毎日、それでも一日でも否、一時間でも長く生きてほしいと……。主人と共に自分の体の朽ち果てるまで……。8か月看病に当たりましたが今思い返してみると、延命でしかなかったかと自分を責めました。しかし、最後は安らかに眠るような旅立ちでした。

私は父の顔を知りません。父は22歳の母、2歳の姉と生後2か月の私を残し23歳で戦死し、私たち姉妹は祖父母と母のもとで、厳しくも人の情けに厚い祖父と我慢強く自分に厳しく他人(ひと)に優しく尽くす母の教えを受けて育ちました。私は、尊敬する祖父と母の教えを心の糧として主人のために全力で尽くすと自らを納得させ「人事を尽くして天命を待つ」が如く、悲しみに耐え自分を責めることをやめました。

思い起せば、都会の中で主人と二人だけの戦争のような日々でした。泣き虫の私のこと、どんなに泣き乱れるかと心配しましたが、その場になれば涙など流すいとまもなく葬儀の準備に追われました。

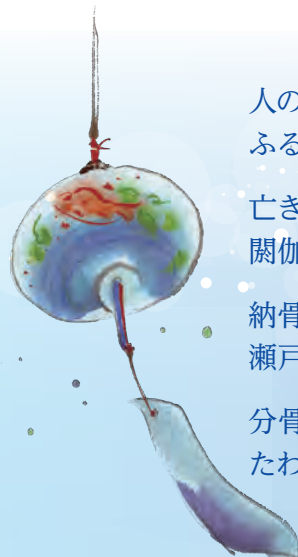
何よりも大きかったのは、二人の子供が心の支えでした。斎場への手配、田舎・友人への連絡等、すべてやってくれました。江古田斎場のお世話になり、心優しい職員の皆様方のお陰で行き届いた、気品のある葬儀だった。と近隣の人からお褒めの言葉を頂戴いたしました。本当にありがとうございました。

葬儀の残務整理に追われ心身ともにボロボロでした。二人だけの生活が長かっただけに一人では生きていけません。お経を捧げるのが日課で、朝早く目が覚めた時の、あの虚しく所在の無さ、きょうをどのように生きていこうかと、この喪失感はとても筆舌では尽くすことが出来ません。毎日涙の涸れるほど狭い部屋の中で大声をあげて泣きました。

そんな折、訪ねてくださった友人に私は救われました。一人・二人・三人と私を見舞ってくださるようになり、皆ご主人様が健在な方ばかりです。さぞ、ご主人様のご理解の上、私を一人にしないために頻りに訪ねて来てくださり、一日一日と元気付けられ、お陰様で今日の私があるのです。

私に癒しの心を与えてくれた、この人たちのご恩は決して忘れることが出来ません。出来得る限りのご恩返しをしなければと自らに誓っています。この思いこそ、今の私の生き甲斐です。持つべきものは友であり、「遠くの親戚より近所の他人」です。本当にありがたく、ひたすら感謝の日々です。

納骨にふるさと(香川県)に帰省した道すがら、ふと浮かんだ心の一端です。



人の世のはかなさひとりしみじみと
ふるさと遠く秋の夕暮れ

亡き人の思い出多く追いかけて
関伽桶を汲む先祖の墓前

納骨にふるさとへの一人旅
瀬戸の静けさが身と二重

分骨を胸に抱きしふるさとへ
たわわな稲穂吾を迎えし

読者の皆様の作品発表

俳句

K.Y (練馬区在住)

春色の布いっばいに旅の夢

春雨にゆるりと開く傘の花

春競馬騎手服に見るはやり色

S.K (練馬区在住)

皇后様被災地見舞ふ水仙花

神前に真心こもる菜の花や

蘭の花おし花作り思ひの日

押し花

S.K (練馬区在住)



子ども達からの金婚祝花
—平成十八年三月十日—

俳画

S.S (練馬区在住)



<編集後記>

皆様には「東京福祉だより(響)」をご愛読いただきありがとうございます。今年、当法人が機関誌を発行してから30年になります。この間、皆様には、『体験文』や『俳句』などの作品を積極的にお寄せいただき、充実した誌面づくりにご協力いただき感謝しております。引き続き小誌が読者の皆様方との交流の場として充実した誌面となるよう、一層のご協力をお願いいたします。また、皆様方のご要望、ご意見、ご感想をお聞かせください。なお、募集作品に『写真』を追加いたしましたので、多くの皆様の作品をお寄せください。

■ 葬儀に関する詳しい資料(施設案内、料金表(仏式、神式、キリスト式、花祭壇など))をご用意しております。お気軽にご請求ください。



- ① 仏式のご案内 ② 花祭壇のご案内 ③ 道灌山会館のご案内 ④ 江古田斎場のご案内
⑤ ホール多摩国立のご案内 ⑥ 会友制度のご案内 ⑦ 葬祭のしおり

■ 資料のご請求はこちらまで

電話 **03-3823-8026**
東京福祉会 渉外部
(E-mail) info@fukushikai.com

東京福祉会 検索
<http://www.fukushikai.com>



「東京福祉会だより(響)」は再生紙を使用しています。